

第3回 これからの市立高等学校のあり方に関する有識者会議 議事要旨

- 1 日時 令和6年7月3日(水) 10時～11時20分
- 2 場所 神戸市総合教育センター 701号室
- 3 出席者 浅野良一会長、井上和彦委員、岡田恵実委員、鴨井幸造委員、齋藤勝洋委員、佐合純委員、佐藤春実委員、船木伸江委員、ラッシラ エルッキ タピオ委員、(野村和宏委員はオンライン参加)
- 4 議題 (1) 市立高校が育てたい人材像 (2) アンケート結果
(3) 大学等・企業・地域との連携及び小中高の連携 (4) 重視すべき教育

5 主なご意見

(1) 市立高校が育てたい人材像

- ・一般的な項目が挙げられており、全ての資質を伸ばすことはできないので、高校ごとの強みを戦略的に取捨選択し、特徴づける必要がある。
- ・強調したいことがわかりにくいですが、全体的なバランスはとれている。
- ・社会の幸せや地域貢献、世界での活躍を目指すとしても、自分の幸せがあつてこそなので、「自分自身の幸せを追求する」というキーワードはとても良い。
- ・才能教育の観点からは、「卓越性」が含まれているのが良い。単に周囲と比較して一番を目指すのではなく、学習者の絶対的な強みを伸ばすことが重要と感じる。
- ・(資料P. 5下段の図について) 円の中の白地の部分は高校教育で育てる資質・能力、中心の3つの人材像(活躍・貢献・価値創造)が目指す人材像であり、その結果として、自分や社会の幸せを希求していくイメージだと考える。

(2) アンケート結果

- ・古い歴史を持つ北区や農業の盛んな西区など、神戸市の中にも様々なエリアがある。地域に根差す、地域特性を理解するという事は非常に重要であり、市立高校が全て市街地に立地する中で、生徒は北区や西区をどう認識しているのか気になった。
- ・社会で必要な能力や在校生に身につけさせたい能力1位が「言葉で自分の意見を伝えたり相手の意見を聞いたりする力」だが、これは表層的なコミュニケーション能力ではなく、自分の思いや考えをきちんと理解し相手に伝えられる能力だと思う。
- ・しっかりキャリア教育を受け、自分のやりたいことを見つけられる中学生から選ばれる高校になるには、どんな特色を打ち出せるかが重要だ。例えば、(アンケートで特色に関する回答が5位となった) 葺合高校普通科をどうしていくかなど、市立高校の特色化を考えることにもつながるのではないかな。
- ・中学生に、まずは高校の特色ある取組に関心を持ってもらい、その取組の中で社会に出て必要な力がつくような(中高間の)連携が出来ると良いのではないかな。
- ・一次産業は日本の成長産業の切り札と言われており、ITやグローバル展開・地域貢献にもつながるため、神戸の地元産業に目を向けたキャリア教育を取り入れてほしい。

- ・教員が「社会に出て必要な力」として多く挙げている情報リテラシーについて、生徒が重視するフィールドワーク的な方法で能力を高めるようなシステムがあるとよい。
- ・在籍校の魅力の回答を見ると、それぞれの高校の特徴がよく出ていると感じる。葺合高校の普通科も英語教育やグローバルな教育は進んでいる。
- ・多くの情報からどれが正しいかを判断する力について、情報の真偽や価値、使い方を教育するのは、教員にとってもまだ不安もあるが、今後の人材育成の重要なポイントなので、きちんと検討する必要がある。
- ・高校の特色や将来の仕事を意識しているなど生徒の前向きな回答が多く、これは県立のように大所帯ではないからこそできることで、約20年前の大幅な再編は成功と言える。今回も全体最適というより、選択的に「〇〇ができる高校」を検討するのがよい。

(3) 大学等・企業・地域との連携及び小中高の連携

- ・外部連携は、責任感や自己肯定感を高めるほか、課題設定や解決能力、データ活用能力や、主体性、多様性の理解、チームワークなどをトータルで使うため、教育効果は非常に高い。企業にとっても、固定概念にとらわれない柔軟な視点が得られるメリットがある。
- ・中小企業は生徒の新しい柔軟なアイデアがあっても事業化するには人手が足りないので大手企業の方が連携に向いていると思う。また、担当教員の熱量が左右する部分があるので、教員のゆとりが連携事業の面白さにもつながると感じている。
- ・探究コーディネーターが外部連携のサポートを行っている自治体もある。
- ・高大連携は教員同士のつながりによることが多く、異動の影響を受けるが、高校間連携では、例えば葺合高が拠点校となり他の市立高校や海外高校の生徒同士で交流する高校生国際会議はクオリティが高い。
- ・中高一貫教育は、高校受験がないので、探究活動などに時間をかけて取組めるメリットは大きい。一方で、将来公務員試験を受ける場合などには、受験を経験していないことがデメリットになることもある。
- ・才能伸長教育の視点から、中高一貫教育には例えば先取学習的に上の学年の授業を受けられる等の柔軟性があり、自分のペースで多様な学習を追求できる可能性がある。
- ・公立学校が中高一貫教育を検討するのであれば、私学に多い中高一貫校の成果等をよく検証し、意義を明確にするべきではないか。

(4) 重視すべき教育

- ・バカロレア教育（IB）は、グローバルや国際を推進している学校において、教育の質の高さやネットワークの広さをアピールしている。どこでもできることではない。
- ・IBは私学が多いが、公立だと中高一貫校ばかりであることを考えると、高校だけで実践するのは難しい。
- ・（有識者会議の）本論中の本論になる。次回改めて様々なご意見をいただきたい。